現代座 通巻 500 号　年４回（3月1日、6月1日、9月1日、12月1日）発行　　1967 年 2 月 18 日 第三種郵便物認可

共生のきずなを求めて！

NPO 現代座

2024 年 3 月 1 日　発行
（通巻 500 号）定価 100 円

現代座レポート　No. 97

・「武蔵野の歌が聞こえる」小金井の公民館で上演します　（1）
・川崎平右衛門フェスタ in 西東京市　（2）
・いずみ と きなこ の 新春 でみ Cafe 寄席　（3）
・われらいずこより⑰ 1977 年～統一劇場再編成の準備（4-7）
・「NPO 会員の集い」をやります～映画『同胞』上映会～（8）
・会館日誌・会員入会・継続・寄付　（8）

NPO 現代座ホームページ　http://www.gendaiza.org/

特定非営利活動法人 ＮＰＯ現代座　発行責任者：木村快
〒 184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号　TEL 042-381-5165（代）　FAX042-381-6987

「武蔵野の歌が聞こえる」
小金井の公民館で上演します

【出演】

黒澤 義之

木下 美智子

東 志野香

八木 浩司

【ピアノ演奏】

新井 紀子

「武蔵野の歌が聞こえる」は、今年また更に新しいバージョンを創ることになりました。

小金井市の公民館貫井南分館から「貫井南センターまつり」プレイベントで何か芝居の公演をしてほしいと要請があったのです。公民館の会議室で舞台も照明もありません。でもどんな場所でも公演できることを目指して、昨年大幅に短くした50分の「新版」を創ったのです。地元の公民館の要請であれば、無理をしてでもやろうと話し合いました。

昨年かなり短くしたので、少し丁寧な説明も加えて1時間くらいの物にしようか、と考えていました。

そんな中、1月1日に能登半島で大きな地震がおきました。

「武蔵野の歌が聞こえる」は江戸中期いくつもの大きな地震があり、その復興のために荒れ地だった武蔵野台を開墾して畑を作る話です。宝永の大地震はマグニチュード8以上と言われ東日本大震災よりも大きな地震です。しかも地震から45日後に富士山が噴火して火山灰が江戸の町まで降り注いだというのですから、それは大変な状況だったろうと、改めて考えてしまいました。

今「武蔵野の歌が聞こえる」を公演するなら、この災害からの復興を、農民の中に眠る助け合いの心を生かして、協同の力で成し遂げた川崎平右衛門の姿を、より分かりやすく、くっきりと伝えられるようにしたい。

そこで木村快がもう一度新しい「語り芝居」として書き直したのです。

出演者４人とピアニストという編成で、稽古を開始しました。

新しい「武蔵野の歌が聞こえる」を創りたいと思います。

第 40 回貫井南センターまつり　プレイベント

『武蔵野の歌が聞こえる』

5 月 12 日（日）　13：30 ～ 14：45　（入場無料）

会場：公民館貫井南分館学習室 AB（貫井南センター内）
定員：50 人（申込順）
申込：電話、または公民館貫井南分館窓口へ（4 月 15 日（月）午前 9 時より受付開始）
公民館貫井南分館（貫井南町 4-3-23）　TEL…042-383-1168

川崎平右衛門フェスタ in 西東京市

2023年12月10日（日）西東京市のコール田無多目的ホールで「川崎平右衛門フェスタin西東京市」が開催されました。

「川崎平右衛門顕彰会」主催のこの催しは、2017年の府中市から始まって今年で7回目です。

西東京市は顕彰会の事務局長である蔦谷栄一さんの地元です。1年前から地域で「農あるまちづくり講座」も開催して準備してきました。

実行委員長は地元の郷土史家近辻喜一さんが引き受けてくださいました。

フェスタは午後1時から始まり、まず実行委員長の近辻喜一さんの開会の辞。続いて顕彰会会長の参議院議員・山田俊男さんの挨拶がありました。

そして「川崎平右衛門フェスタの目指すもの」について顕彰会理事でワーカーズコープ三多摩事業本部長の扶蘓文重さんから説明がありました。

そしていよいよ歴史講話が始まります。まず、田無近辺地方史研究会副代表の滝島俊さんによる「田無村の成立と田無用水」。

続いて御門訴事件を伝えていく会代表の真蔵院住職孤島法夫さんによる「川崎平右衛門と御門訴事件」。

はじめて知ることも多く、客席いっぱいの参加者は集中して聞いていました。

休憩のあとはパネルディスカッション「西東京市における農あるまちづくり」です。

コーディネーターは都市農業研究会副委員長の蔦谷栄一さんが務めます。

パネラーは5人。

・昨年も登壇してくださった武蔵野市の清水農園の清水茂さん。

・東大生態調和農学機構市民委員の田中敏久さん。

・ニイクラファーム専務の新倉大次郎さん。

・西東京菜の花エコプロジェクト代表の茂木千佳子さん。

・西東京市矢ヶ崎ブドウ園の矢ヶ崎泰幸さん。

どの方の活動も興味深く、もっと聞きたかったという声がアンケートでも寄せられました。

そして最後は、川崎平右衛門研究会会長で東京学芸大学名誉教授・大石学先生による歴史講話「西東京市の新田開発」です。今回は会場に来ることが出来なくなり、急遽オンラインで行われました。

盛りだくさんの内容で時間が足りないほどでしたが、充実した「平右衛門フェスタ」になりました。

今回のフェスタでも、昨年同様プレイベントとして西東京市を歩く「ポールウオーク」と、労働者協同組合法成立を記念してワーカーズコープが制作した映画「医師中村哲の仕事・働くということ」の上映会が行われ好評でした。

次回の川崎平右衛門フェスタは2024年7月14日（日）に所沢市で開催されることが決まり、すでに準備が始まっています。

◆滝島 俊さん
（田無近辺地方史研究会副代表）

◆狐島 法夫さん
（御門訴事件を伝えていく会代表 / 真蔵院住職）

◆大石 学さん
（東京学芸大学名誉教授
川崎平右衛門研究会会長）

（左から）
◆蔦谷 栄一さん（都市農業研究会副委員長）
◆清水 茂さん（武蔵野市 清水農園）
◆田中 敏久さん（東大生態調和農学機構市民委員）

（左から）
◆新倉 大次郎さん（ニイクラファーム専務）
◆茂木 千佳子さん（西東京菜の花エコプロジェクト代表）
◆矢ヶ崎 泰幸さん（西東京市 矢ヶ崎ブドウ園）

いずみときなこの 新春 でみ Cafe 寄席

でみ Cafe 店主・嶋岡秀美

去る1月20日（土）に現代座3階小ホールにて、今年初の「でみ Cafe 寄席」を昼と夜の2公演開催させていただきました。

「でみ Cafe 寄席」は今回で9回目。これまでは小金井に実店舗があった「でみ Cafe」の店内で開催していたのですが、「でみ Café」が2023年8月に閉店した為、今回より同じく小金井にある現代座さまをお借りしての開催となりました。

「でみ Cafe 寄席」は、腹話術師いずみとケンちゃん、落語家の林家きなこ、そしてでみ Cafe 店主のでみ、3人で1つのチームなのですが、初めての場所での開催ということもあり、いつも以上に真剣に、半年以上前から3人で、寄席のタイトル、チラシ作り、料金の設定、演目、お仲入りにお出しするドリンクとおからドーナツにいたるまで事細かく、時間をかけて話し合い、すすめていきました。

「腹話術」、「落語」、「おからドーナツ」。どれも「でみ Cafe 寄席」には欠かせないものです。

今回、私達にとって「現代座」は初めてのステージ。初めての場所であっても、お客様に「安心安全に過ごしていただきたい、そしてほっこりをお届けしたい」という気持ちに変わりはありません。

これまでは実店舗で作っていたおからドーナツをシェアキッチンで作ることになり、勝手の違う場所で大量のドーナツを作ることはそれなりに大変ではありましたが、初めての経験に心のどこかではワクワクとドキドキを感じていました。

そうして迎えた当日。昼と夜の2公演は共に満席。昼の部では最前列に用意した親子席から小さな子ども達の笑い声がひびき、2人の公演にも熱が入っていたように思います。

腹話術師いずみとケンちゃんはお話しだけではなく、歌も歌います。2人の歌声からは子ども達に対する優しい気持ちがジーンと伝わってきて、楽屋にいた私の胸にも優しく響きました。

林家きなこは今回は「寿限無」と「王子の狐」を。途中に物まねなどもはさみ、会場からはたえず笑い声が聞こえてきました。

実は、私達3人にはこの日を迎える直前に話し合って決めていたことがありました。

それは、2024年あけてすぐに起きた「能登半島地震」で被災された人々の為に今、私達にできることはないだろうか？という気持ちから、会場の入り口に「募金箱」を設置するということでした。

私達の寄席はお客様に笑っていただくこと、ほっこりしていただくことが一番の目的ではありますが、今もなお、不自由な生活を余儀なくされている人達がたくさんいらっしゃること、笑えない現実に直面している子ども達がたくさんいること、そして、私達にできることは本当に小さなことですが、できるだけたくさんの人達にほっこりをお届けすることではないだろうかと考えました。

そんな気持ちに賛同してくださったお客様にはこころから感謝いたします。

本当にありがとうございました。集まったお金は先日、子ども支援を中心に行っているワールド・ビジョン・ジャパンへ送金させていただきました。

最後になりましたが、今回、事前の打ち合わせも含め、会場づくり、音響、当日の受付、ドリンクやおからドーナツの提供まで、手際よくサポートしてくださった現代座さまのスタッフの皆様には本当に心から厚く御礼申し上げます。

お客様からも、「ぜひまた、現代座さんでの開催を」という声も多数いただいております。

至らない点も多いと思いますが、これからも「でみ Cafe 寄席」をどうぞよろしくお願いいたします。

（左から）腹話術師いずみさん、
でみ Cafe 店主・嶋岡さん、林家きなこさん

木村ノート◆われらいずこより来たる 第3部
⑰1977年～統一劇場再編成の準備
木村快

【第1部】日本新劇史・資料からのまとめ
①・レポート81号　1950年、新劇運動の分裂
　中間派は「ヴェリテ・せるくる」を設立。
②・レポート82号　1951年、ヴェリテ解散。
　真山、草村、槇村で新制作座。
③・レポート83号　1954年、庶民の新劇を標榜
　労働組合関係者の支持で全国公演が始まる。
【第2部】活動に参加した木村快の視点から
④・レポート84号　1959年(1)特別研究所開設。
⑤・レポート85号　1959年(2)巡演活動の実態
⑥・レポート86号　1960年　安保闘争。
　平和集会では国際的要人からも注目が集まる。
⑦・レポート87号　1963年(1)
　インドネシア訪問日本文化使節団の公演記録
⑧・レポート88号　1963年(2)
　ユートピア新制作座文化センター設立。
⑨・レポート89号　1964年
　ユートピアの破綻・劇団員・従業員の首きり。
⑩・レポート90号　1965年(1)
　世の中から捨てられた若者たち
【第3部】生まれ変わって
⑪・レポート91号　1965年(2)新しい生き方探して
⑫・レポート92号　1969年　最初の試練
⑬・レポート93号　1970年　新しい劇団をつくれ
⑭・レポート94号　稽古場建設と映画『同胞』
⑮・レポート95号　1975年　十年間を振り返って
⑯・レポート96号　創立十周年を迎えて

⑰1977年～統一劇場再編成の準備

◆筆者の立場から

前号で希望ホールの開設準備について記述したが、現代の若い人たちには時代背景がよく理解できないようだった。

振り返ってみれば、ぼくらは直面している目の前のことだけに心を奪われていたが、実は世の中は大きく変わりつつあった。1971年からはテレビもカラーの時代を迎え、若者たちの風俗も、特に都会ではどんどん変貌していた。けれどぼくらは貧しかったから、それは別世界の風景として眺めるだけだった。

もともとぼくらは新制作座時代から徹底した集団生活で働いていたため、新制作座を追い出されてからも固まって生きることしかできず、その上、新聞報道では事実を取材されることもなく、一斉に「アカ」の若者たちの反乱だと宣伝され、警察や税務署からは常に監視され、一般の人々からも警戒されていた。

だからこそひっそりと人目につかない農村部を歩き回り、直接興味を持ってくれる人たちを相手に全国公演を続けることができたのだとも言える。

この間の経過は⑪レポート91号～⑫レポート92号に記述した通りである。

◆自立能力を持った集団をつくれ

前号でも述べた通り、争議団からなんとか十年以上生き延びて、気がつくと百人近い集団になっている。だが自分たちがどこへ向かっているのか判らなかった。なんとしても生涯の仕事としての目標を持った集団へ転換させなければならなかった。

◆自立可能な石塚克彦チーム

再編成の第一歩としては1972年から始まった石塚克彦チームの育成がある。これは山形雄策氏が力を入れてくださり、『おもちゃの青春』、『ふるさと』、『おっ母さん』と三作続き、比較的若いメンバーを集めて固定していたから、いつ独立してもやっていける力を持っていた。

問題はそれ以外のメンバーが逆に全般的な活動に追いまくられ、寄せ集めのままだったことである。

それで取りあえず動かすことのできない山田洋次作『結婚』の全国公演を続けながら、新しく希望ホールの活動を開始することになった。

【三年計画の希望ホールの活動】

寄せ集め集団から新しく創造集団を生み出すには、それに応じた作家、演出家の育成が必要であり、それに応じたチームワークの訓練が必要だということになった。そこで1978年から3年計画で、小編成による自立した上演活動を展開することになった。

1977年中に東京山手線・五反田駅近くの商店街のビル2階に50名前後の観客席を備えた上演ホールを開設した。五反田は京浜工業地帯の労働者たちがやってくるには大変便利だが、借料も高く、ホールの設計料、工事などで開設費は400万円以上かかった。その上、ホールの運営メンバーは早番・遅番があるため、現地に10人以上の宿泊場所を確保しておく必要があった。準備委員会の検討によると、独立採算は不可能で、年間一千万円の補強が必要だと言う。このため劇団全体の財政は全国公演の収入と、新作『港で拾った花』の全国公演によってまかなうことになった。

◆希望ホールの活動内容

・平日は普通の喫茶店とし、カウンターにはあらかじめ専門講習を受けたスタッフを配置し、上演グループは分担して接客に当たる。

・【土日劇場】土曜日は夜1回、日曜は午後と夜で2回上演する。前半部は合唱と踊りとコント、後半は1時間前後の劇作品。演目は月替わりとする。

・入場者は会員制とし、開始に当たっては、全国公演各地の実行委員から東京・京浜工業地帯へ働きに出ている青年を紹介して貰い、希望ホールについて知らせて歩いた。

◆「現代ゼミナール」を組み込む

年配の協力者からは上演技術も大切だが、運動的視野を広げるためには講演会のようなものを組み込む必要があるとの助言もあった。しかし新聞やテレビで話題になるような高名な先生方とはなじみもなく、どうしたものかと悩んでいた。

★希望ホール客席、平日は自由に歓談できる喫茶ホール。

★土曜日、日曜日になるとたちまち小劇場に変身。上の写真と同じ位置から。

すると統一劇場の支援者である同時代社社長・川上徹氏がすすんで担当してくれることになり、様々な講演者と折衝し、引き合わせてくれた。先生方も興味を持ってくださり、思いがけない形で若者を対象とした「現代ゼミナール・時代を考える講演会」を開催することになった。

〈講演者の顔ぶれ〉

◆１９７９年　山田洋次氏（映画監督）、古在由重氏（哲学者）、陸井三郎氏（国際評論家）、李恢成氏（作家）。丸岡秀子氏（評論家）。斎藤茂男氏（ジャーナリスト）

◆１９８０年　日向康氏（作家）、井出孫六氏（作家）、山田太一氏（脚本家）、松浦惣三氏（評論家）、石垣綾子氏（女性問題評論家）、小田実氏（作家）など。

【山田洋次作『結婚』の上演】

この作品の制作は山田洋次さんと懇談中、ひょいと提案されたことから始まった。木村にはいわゆる商業演劇のような大舞台を手がけたことはなかったが、山田さんにしてみれば一度は経験しておく必要があると思われたのだろう。舞台装置は大がかりなもので、山田組の出川三男さんが松竹撮影所で製作した装置を運び込んだときは驚いた記憶がある。

【友好劇団との交流】

１９８１年『ターミナル』（木村快作）

これは統一劇場の公演ではないが、「劇団青芸」の学校公演作品として木村が取材し、制作した。

この劇団はある大劇団から排除された若者たちが作ったもので、われわれの争議団時代を思い返し、こちらから積極的に支援させて貰った。

『ターミナル』は好評で、後に沖縄の旅館を舞台にした作品を依頼され『あかばなーの島』を書いたことがある。

★ 全国公演『おっ母さん』石塚克彦作品

★ 1978 年８月、新宿安田生命ホール『結婚』、山田洋次原作、朝間義隆・木村快の共同脚色。

★ 1981 年、劇団青芸、『ターミナル』木村快作、パモス青芸館で上演。川崎市の貨物ターミナルで働く人々が集まる喫茶店が舞台。取材では川崎労音の協力を受ける。

希望ホールの活動

【作品の制作方法を体験させながら】

１９７７年度中に希望ホールの議論を進めていたので、すでに幾つかのグループが準備を始めていた。若い劇団員は俳優としての経験はあったが、作家や演出の仕事を考えたことはなかった。そこで最初の５作品は木村が担当し、取材方法、登場人物の個性の生かし方を一緒に考え、その上で観客と共に劇場の雰囲気を感じてみることからはじめた。幾つかの作品を紹介してみる。

◆作品No.１『ユーレイよ自分の足で立て』

希望ホール第一作である。話は世の中を恨みながら死んだ男のユーレイが、一匹の子犬と出会ったことから、天国や地獄と関係なく自由に旅をはじめる物語。

花かご班は音楽大学で専門教育を受けた龍野もと子が中心になって都内で活動していたが１９７５年に統一劇場へ入団した。演劇については全くの素人だったが、ちょっとしたコント風のストーリーをフォスターの合唱やジャズソングの替え歌でつなぎ、主役の林操をもり立てた。これには林も驚いたようで、彼も人が変わったように自由に演じるようになった。当時の低所得労働者が直面する生活の辛さをきっちり織り込み、若い労働者たちから大喝采を受けていた。そのため希望ホールの親しみやすいイメージを広げることができた。

◆作品No.２『ブーゲンビリアの咲く街で』

ちょっと雰囲気を変えて、インドネシアの街を背景にしたオーソドックスな対話劇。ブーゲンビリアは熱帯地方の花。当時問題になっていた政府開発援助（ＯＤＡ）における日本企業と現地政権とのなれ合いで犠牲になった職員が国を捨てる物語。

◆作品No.５『幼なじみ』

都心の商店街に大型スーパーが進出することになり、地元商店街は危機にさらされていた。その一帯を歩きながら話を聞き、古い世代と新しい世代の葛藤をドラマにしたもの。

◆作品No.22『マリリン島にて』

ちょうど海外渡航が自由化された時期である。日系企業が進出しているアジアの島々なら低料金で行けた。みんなで資料を集め、議論した内容を木村が作品にしてみた。日本人の若者たちが旅行会社の宣伝に乗って出かけてはみたものの、船を乗り間違え大騒ぎをする。だが、現地の人々との交流で、改めて日本人として生きていく自覚を持つ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

どの作品にも音楽や合唱が使われているが、すべて岡田京子・安達元彦の作曲・指導による。

◆終演後は観客とビールやコーヒーを飲みながら語り合い、職場の現状や問題意識を学びながら次の作品を考えることができた。

作品No.01_ユーレイよ自分の足で立て

作品No.02_ブーゲンビリアの咲く街で

作品No.05_幼なじみ

作品No.22_マリリン島にて

◆終演後は観客と肩を組んで合唱

★山田洋次監督
開設日に駆けつけ、「希望ホールをよろしく」と挨拶される。

『男はつらいよ』で寅さんのおばさんの役★三崎千恵子さん山田監督と一緒に出席。客席のお茶を入れてくださった。

希望ホール作品別リスト

作No.		1978□	回数	入場者	作者	出演者数 男	出演者数 女
1	2月	ユーレイよ自分の足で立て	8	329	木村快	2	3
2	3月	ブーゲンビリアの咲く街で	8	301	木村快	3	3
3	4月	港で拾った花	9	450	木村快	4	4
4	5月	雨上がり	7	289	木村快 服部町子	2	4
5	6月	幼なじみ	9	350	木村快 吉田衣江	3	2
	7月	夏祭りバラエティ　全スタッフ	10	380			
6	8月	初恋はカレーライスの味	6	249	天城美枝	2	2
7	9月	お見合い	8	253	田中暢	1	5
8	10月	女たちの秋	10	301	安藤時子	3	3
9		朝を待つ駅(併演)			林 操	3	2
10	11月	万年先生上京す	10	339	下条倬弘	2	3
	12月	ユーレイ＆ブーゲン(再演)	6	266	木村快	5	6
		計	91	3,507			
		1979年					
11	2.3月	ロッキングチェアのおじさん	21	528	林 操	3	3
12	4月	海辺の公園で	12	329	木村快	2	1
13	5月	男と男の話1	15	544	林 操	3	1
14	6.7月	ハッピーガール	24	689	木村、林 操	2	4
15	8月	男と男の話2	15	393	林 操	4	2
16	9月	とんだおばさん	12	339	天城美枝	4	2
17	11月	下積み稼業	23	901	田中 暢	3	3
18	12月	男と男の話3	12	369	林 操	3	1
		計	134	4,092			
		1980年					
19	2.3月	祭りの日	27	820	山形雄策	2	3
20	4.5月	あんどんとカラオケ	27	620	山形雄策	1	1
21		雨のち晴れ（併演）			林 操	2	1
22	7月	マリリン島にて	17	1197	木村快	2	2
23		男と男の話4(併演)			林 操	4	
24	9月	お見合い	13	948	田中 暢	1	5
25	11月	7年目のクラス会	17	830	田中 暢	1	3
		計	101	4,415			
		３カ年計画終了 1978～80年総計	326	11,924			
		1981年					
26	4.5月	多恵の青春	21	600	安藤時子	2	4
27	6月	虹を追う娘	21	830	林 操		
	８月	星の降る夜の物語	12	708	朝間義隆		
28	9月	商船テナシティ（仏映画の脚色）	11	631	木村快	5	1
29	10月	青春スクランブル	20	759	田中 暢		
30	11月	当たったしまった宝くじ	22	6921	山形雄策		
		計	94	10,449			

お　知　ら　せ

TEL：042-381-5165
FAX：042-381-6987

「NPO 会員の集い」をやります　～映画『同胞』上映会～

ＮＰＯ現代座の会員の皆さん。いつも応援して頂いてありがとうございます。

また小金井周辺の会員の皆さんには、この「現代座レポート」の発送作業や公演の時の受付等、ボランティアスタッフとして助けていただいてありがとうございます。

前回のレポート96号の発送の時、作業をしながら雑談する中で、山田洋次さんが撮った映画「同胞（はらから）」の話しになりました。

『同胞』は１９７５年に山田洋次監督が統一劇場（今の現代座）の公演活動を通して農村の若者たちを描いた映画です。

ずっとサポーターとして手伝ってくれている人もこの映画を観ていない事が分かりました。

まずこの映画を会員の皆さんといっしょに観よう、ということになりました。

できたら現代座の歴史を知り、これからの活動についてもいっしょに考えていく「会員の集い」にしていけたらうれしいです。

会員で無い方も、興味がある方はどうぞご参加ください。

４月 21 日（日）13 時～
会場：現代座地下ホール
参加費：1000 円

現代座会館　12月～２０２４年２月　活動日誌

12月16日　「現代座レポート96号」発送作業
1月7日　現代座会議・新年会
9日　現代座「出航」会議
31日　現代座「武蔵野の歌が聞こえる」会議
2月18日　現代座会議
第３木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】
12月１～４日　「希望舞台」稽古
15～17日　東京学芸大演劇研究部
「劇団漠」公演
19日～24日　「宇宙論☆講座」公演
2月５～12日　「演劇ユニット東京ナイフ」公演

【三階小ホール】
12月４日　小金井女声合唱団
1月15、22日　小金井女声合唱団
20日　「いずみときなこのでみ cafe 寄席」
2月４日　津田「リトルコンサート」
3月23、24日　「東京工学院専門学校」卒業公演
隔水曜・木曜日　朗読教室
毎火曜・木曜日　ヨガ教室

【二階サロン】
12月16日　こども将棋グランプリ
1月20日　こども将棋グランプリ
2月３日　緑町第２町会役員会
10日　こども将棋グランプリ
あゆみ将棋塾
毎水曜日　熟年パソコンサークル

ＮＰＯ現代座の会員になってください

●年間４回発行の活動レポートをお送りします。
●会員による企画行事をお知らせします。
●お申し出があれば、上演舞台の録画ＤＶＤをお送りします。

★年会費（現代座レポート購読料を含む）
一般会員　3,000 円
協賛会員　10,000 円（１口以上）
郵便振替口座番号　00110-7-703151　ＮＰＯ現代座